

一般社団法人日本フットサル施設連盟

フットサル施設の営業についてのガイドライン

(新型コロナウイルス感染症予防対策)

第1版

2020/05/26

はじめに

2020年の年初より感染が拡大した新型コロナウイルスの影響により、社会・経済活動が停滞する中、政府の緊急事態宣言以後においては、各事業者も営業を自粛する等大きな影響を受けていることといたします。

幸いにしてフットサル場でのクラスター等の例はここまで出ておりませんが、今後の安全な運営を継続していくために、皆様の営業の目安にさせていただきたく、ガイドラインを策定いたしました。

本ガイドラインは、政府の方針や、スポーツ庁のガイドラインを参考にまとめたものです。

加盟各施設に置かれましては、本ガイドラインを参考にいただき感染予防に留意しながら営業をしていただければと思います。

なお、本ガイドラインは各事業者を拘束するものではなく、各施設の実情、地域特性、感染状況の変化などに応じて、段階的に対応を変更するなど、各事業者にて判断をしてください。

※本ガイドラインは、発行時時点の知見に基づき策定しており、今後状況の変化により随時改定していく場合がございます。

1. 参加者への告知

H Pや掲示物などで、事前に参加者に対して、感染予防の呼びかけをし、協力を仰ぐことが重要です。このような取り組みは、施設の積極的な感染予防を周知することにもつながり、参加者の安心感にもつながります。

参加者への連絡例

- 以下に該当する場合の自主的な参加の見合わせ
 - 体調の良くない場合（風邪の症状、発熱、咳、のどの痛み等）
 - 同居家族や職場など身近な人に感染が疑われる方がいる場合
- 来場時のマスク着用の呼びかけ
- 受け付けは1名で来てもらうよう協力の依頼
- 使用後は速やかに退所するよう協力を依頼
- 施設利用後、感染が確認された場合の速やかな施設へのご連絡のお願い

2. 参加者の連絡先の把握

万が一、施設利用者から感染者が出た場合に迅速に連絡が取れるよう、施設利用者の連絡先を把握することが求められます。

連絡先の把握例

- 個人参加フットサル、クリニックなど主体が個人の場合は参加者
- レンタルコート、大会などの場合はチーム代表者
 - チーム代表者に、参加全員に連絡が取れるよう事前に声掛け
 - 特に練習試合など対戦相手にも協力の依頼

3. 施設における感染防止対策

(ア) 受付

- ① 受付スタッフはマスクを着用し接客を行う
- ② 現金のやり取りはトレーなどを通して行う（直接受け取らない）
- ③ 現金を扱った後は手洗いや消毒を行う
- ④ アルコール消毒を設置し、参加者への利用を促す
- ⑤ 必要に応じて、利用同意書などのサインをもらう

(イ) 手洗い場所

- ① 手洗い場所には液体型の石鹸を用意する（固形石鹸はなるべく設置しない）
- ② 布タオルなど備え付けのものは置かない
- ③ こまめに手洗いをするよう、手洗いの仕方などのPOPを掲示する

(ウ) トイレ

※トイレは感染リスクが高いとされており、特に注意をしてください。

- ① 密閉された空間になることを避けるため、窓がある場合は基本的に開放して使用する（難しい場合はこまめな換気を）
- ② 窓がない場合は、利用がないときになるべくドアを開放して換気する。
- ③ 便器のふたを閉めて流すようPOPなどで表示する
- ④ こまめな消毒、清掃を行う（特にドアノブなど手が触れるところは頻繁に）

(エ) 更衣室

※更衣室は感染リスクが高いとされる「3密」になる条件が整っていますので、特に注意をしてください。

- ① 利用人数に留意し、利用人数が多い場合は人数制限を行うなど注意をする
- ② 窓は基本的に開放する
- ③ できる限りマスクの着用を促し、会話は極力避けるよう周知する
- ④ 長時間滞在しないよう、着替えが終わったら速やかに退室することを促す
- ⑤ こまめな消毒、清掃を行う（特にドアノブなど手が触れるところは頻繁に）

(オ) 大会、個人参加等のプログラム時

- ① ビブスはできる限り共用しないようにする。
 1. 個人参加などではチーム替えの時に新しいものと交換する
 2. 大会時は、利用チーム数分用意する
- ② 試合に出ていないときは、なるべく離れて待機をするように呼びかけ（チームごとの待機スペースを指定できるのが望ましい）。待機中はマスクを着用するようお願いする
- ③ 応援者など、試合に出ない人はマスクを着用するようお願いする
- ④ ハイタッチや円陣などは控えるよう声をかける
- ⑤ 審判、運営スタッフはなるべくマスクを着用する。
- ⑥ 笛は電子ホイッスルに切り替える

(カ) スクール（主に子供向け）

- ① 毎日の検温を家庭でするように依頼し、体調が悪い子の参加を見送るよう、保護者に強く依頼をする。
- ② スクール前後の手洗いを徹底し、低学年の場合はコーチも一緒に行くなどの工夫をする。
- ③ 指導者はマスクを着用し、笛は電子ホイッスルを活用する
- ④ 保護者はマスクを着用することを依頼する。
- ⑤ ビブスはなるべくクラスごとに交換をする。
- ⑥ 休憩中などに子供同士が近づきすぎないように注意を払う。
- ⑦ ドリンクやタオルは各個人で用意をさせ、共有しないようにする。
- ⑧ スクール後は速やかに帰宅をするよう促す。